

# 四月例会御案内 (平成二十三年)

## 時代を刷新する会

### ○ 御案内

四月二十日(水) 正午～二時半 衆議院第一議員会館地下一階・第一会議室 (第二九九回)  
講題 当団体が六回にわたり、時の政府へ提出した大震災・大事故対策要請書の内容説明  
解説 清原淳平・当団体専務理事

当団体では、大震災・大事故対策を二〇年前から検討して来ており、平成五年に第一回の政府宛要請書を提出。平成七年の阪神淡路大震災後は特に専門の委員会を設け、各分野の実地専門家を集め、平成一七年に第二回目の要請書を提出。そして、平成一八年二月二十二日には、より具体的な『大震災・大事故に当たり、迅速な人命救助と被災地復興支援のため、全国主要地に予め基地を設け救援する具体策を提案する。』を起案作成して時の政府へ提出しました。当団体は、この三〇年間に実に一三四本の要請書をつくり時の政府へ提出してはいますが、この『大震災・大事故対策要請書』は、事の重要性から、平成一八年以降は、少し内容を補正しつつ、ほとんど歴代の内閣へ提出してきました。しかし、一年前後の短命内閣が続いたためか、時の政府は、本格的に取り組もうとせず、今回の東北関東大震災のような大地震・大津波・原発事故という国難に直面したことは、誠に残念であり断腸の思いです。そこで今回は、当団体が時の政府へ提出したこれら要請書の内容を詳しく解説いたします。奮っての御参加を!

(清原記)

### □ ◎ 当日の会費 四千元 (昼食の準備もあり、前日までに出入の御連絡をいただきたく)

#### 御報告

去る三月八日の月例会は、当団体に古くから参加されている坂梨靖彦先生(戦略研究家、京都帝大卒、元陸軍主計少尉、航空自衛隊空将補)が、斯界で知られている雑誌『軍事研究』に本年の一月号からずっと、「帝国陸軍と神代の自衛隊!」と題する御体験を連載中なので、この機会に、当団体でも、同じテーマで御講話いただきました。

それは、一代記ですから広範にわたりますが、その要旨を記しますと、坂梨先生は九州出身で、旧制中学は東京府立一中、しかし、柔道を得意としていたので、柔道の名門・愛媛の旧制松山高等学校へ進学。大学は京都帝国大学へ入学したが、大東亜戦争に突入したので、二年で繰上げ卒業・学徒出陣という状況を知り、どうせ長い命ではないということで、仲間と毎晩飲み歩き、祇園で芸者を揚げたりした。入隊し東京溝の口の連隊で徹底した軍隊教育を受け、幸い陸軍経理学校の試験に合格し、外地には行かなかったが、三月十日の東京大空襲では救援に赴いた。死屍累々でそれは悲惨な状況だった。終戦後、進駐軍が印刷工場を捜していると聞き、印刷会社を立ち上げ、いわゆる成り金になったが、仕事を任せた友人に裏切られ、無一文となった折、警察予備隊創設を知り応募・入隊したが、直後の健康診断で肺に影響ありと言われ入院。幸い医師が旧友だったので、静養し、回復して警察予備隊に復帰。それが保安隊から自衛隊となり、自衛隊の草創期から体験したお話で、正に戦時・戦後の生証人で、歴史的証言でした。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、一昨年七月、九十歳を機に辞任され、現在は江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ百三十四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、当事務局まで、御返信をいただきたく。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

四月二十日(水) 出 欠(いずれか〇) 衆議院第一議員会館地下一階・第一会議室